滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減 每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

一ケ月以內 …
一長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

…市元…六吊百至六…吊二百
…銀價錢五吊四百文至五吊
…共上車三十餘輛
…邊東共來七十餘輛
元四六吊九百至六吊八百

一七九半紙 一仝 一圓八十錢
一連紙 一連 一圓
一フールスカップ 仝 四圓
一中判洋紙 仝 二圓
一半紙 野紙 百枚 二十錢
一卷紙 四十枚續 十四錢

一…紙… 一圓…
一椅子 一圓五十錢以上四圓五十錢
一籠笥 三十圓以上三十五圓
一卓子 四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛 六圓以上十二圓
一廚房用戶棚 七圓五十錢以上十圓

一絨毛布 一枚モノ 四圓以上六圓五十錢
一長火鉢 八圓以上十一圓五十錢
一箱火鉢 二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢 一對 六圓以上九圓

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓
本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
横濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告
山城丸 仝十三日午后三時太沽、芝罘、門司行
千珠丸 仝十五日横濱行
竹島丸 四月廿日 大沽、芝罘、長崎 門司、神戸行
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ
營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

瀛船出帆廣告
日勝丸 四月十六日門司四日市行
日海丸 近日入港
顆朝丸 近日入港
松茂洋行船舶部 (電話五二一番)

新荷着
朝日ビール
スペシヤル、ライト
廉價販賣仕候
滿洲一手販賣元
松茂洋行商品部 (電話五二一番)

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不惧此本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需 國本主人啓

宅合名會社分莊
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印井其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋胰鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
運輸部
遣般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一三

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜彙置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚特此通知之
正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
係裝運各幇火輪船生意兼賣各料洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第七三號

丸三洋行分莊
啓者本行開設於元神廟街精工自造手巾東洋 緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸
九三洋行分莊謹啓

永順洋行
本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃(電話九十五番)
西義順棧內 西櫃(電話九十八番)

代代木烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(撒利)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉 諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買應不致誤謹此廣告

本行瀛船
摩耶山丸 賴朝丸
專往東洋各埠
啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連興至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌皐酒日本清酒一概俱全另有淸國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷
松茂洋行 (電話五十二一番)

三井 電話 第六十六號 第九十一號
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近恕蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八号)

經理
○明治火險公司
本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售、日本白米

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行 電話 第六十六號 第九十一號

生徒募集
營口瀛華實學院 招入學生
今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口 瀛華實學院
本學院財業謀生助者成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

(周) 東清鐵道 裕和盛運輸局 (電話八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門
啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車々又承辦東淸鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不惧主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎 謹啓
營口永世街第一八四號々野町

材木 荒物 販賣
秋田洋行
本店 下關 秋田寅之輔商店

税關手續
一船舶代理
一貨物取扱
一委託販賣
弊公司昨年開業爾來引續キ營業罷在候處今般一層業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬及貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依賴ニ應シ御立換可仕尙其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也
綏定門街第五〇 營口英國領事館東首
三仁公司 (電話一五〇號) 小島榮歳

上海 中井洋行
專運日本各式紙料
本行開設己歷多年曾與日本製造名廠料有專銷之約凡新聞紙料印書紙各式紙訂莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售 貴客惠顧請至江西路五十一號本門牌可也
中井洋行

一、東清鐵道貨物取扱
一、貨物集配
一、瀛車貨物積卸シ
右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候
關東總督府特許 丸重洋行
營口西北街(電話一八番)
牛家屯停車場構內(電話四六番)

東洋號運貨局
本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托重見不欺且運費格外公道以簿貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸算亦可均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局可代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨也特此週知
新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

新荷着
▲板材木 ▲木炭
▲生石灰 ▲竹
▲亞鉛板 ▲洋釘
▲日本米 ▲疊
喜久洋行
營口永世街八十號 (電話百五十二番)

太古輪船公司
啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行瑪頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口 太古輪船公司

啓者有遼陽聚豐隆在遼買東升廣會票一張計廣字元號聚豐隆名下營平銀壹仟零柒拾兩正係營口永遠興照付又買天和福一張字字一百六十二號聚豐隆名下營平銀伍佰叁拾伍兩係營口廣順棧照付又遼陽廣興義托聚豐隆客人王輔臣帶來營信內附會票一張在遼買公立公司公字二號泰峯鎮名下營平銀壹仟零柒拾兩係營莊匯源達照付以上會票於清歷三月初九日由遼陽乘火車赴營晩一點鐘行至牛家屯東在火車內被匪人切去並失去手票爲此聲明無論落在何人之手作爲廢紙望各中外官商切勿收用特此登報勿謂言之不預也
清歷三月十二日
遼陽 廣興義 聚豐隆 二家仝啓

東京電報

●兒玉新總長會議出席　新任兒玉參謀總長には十一日午後參謀本部會議に出席せり

●參謀次長候補者　參謀次長候補者として最古參少將福島氏最も呼聲高し

●兒玉子爵と戰役行賞　兒玉子爵は戰役の行賞にて伯爵に陞るへしといふ

●樞密顧問官の候補者　清浦奎吾曾根荒助兩氏樞密顧問官の候補者に擬せらる

●宮殿引渡と清帝謝電　奉天の各陵宮寢殿は我軍隊にて保護ありしを趙爾巽に引渡したる所清國皇帝より我陛下に對し帝國の高義を謝し且つ軍隊の規律嚴正なるの致す所なる旨を記したる謝電を致せるを以て陛下よりも御返電ありたり

●紀念博覽會開會　戰後紀念大坂博覽會十日開會式を擧げたり

●統監の歡迎會臨場　伊藤統監には鶴原總務長官等を從へ仁川歡迎會に出席せり

●義和宮の敍任　義和宮は陸軍副將に任じ大勳位を授けらる

(以上四月十二日發電)

北京電報

●清國の吉長鐵道自辦　吉林の有志代表者六日北京着商部に對し長春吉林間鐵道を清國の資本にて敷設の件を出願せる所其請を允し八十萬兩の補助を承諾せりと

●清國の抗議申込　外務部は伊通州にて我軍の取り立て居る車稅に對する抗議を我公使館に申込めり

●南昌事件要求拒絕　駐清佛國公使は南昌事件の要求を提出せるも外務部は强硬に拒絕せり

(以上四月十二日發電)

遼陽電報

●大島總督の出發　大觀兵式に參列せらるべき大島總督は本日午後零時二十分遼陽を出發し奉天に向はれたり同地に二三日滯在安奉鐵道に由り韓國を經由し上京の筈なり

(四月十二日特別通信員發)

倫敦電報

●噴火益々猛烈　ベスビウスの噴火山は壯觀を極むチーブルスの市街は降灰積りて數寸に達せり、サン、ギセツペ及びサン、ギオバニーに於ては數回の地震あり家屋倒れて數名の死者を生せり厚さ二十尺幅六百尺なる溶岩石(ラバ)の一大流は既にベスコトレカセを衝きて今や一時間に半哩の速力を以てトレアンツイヤタに侵入しつゝあり他の一小流はアタヂヤナ地方を通過し途中の家屋を破壞せり該地方に於ては降灰積りて一尺二寸に達せり公衆の安寧秩序を維持せむが爲めにアオスタ公爵は軍隊の指揮に任せり各汽船は萬一の場合を虞りて準備を整へ居れり伊國政府は一艦隊をネープルスに派遣してアオスタ公爵の用に供せり軍艦二隻はトレデルネツクの避難民を他に移しつゝあり

(以上四月九日發電)

●伊國噴火別報　ベスビウス噴火山は稍靜穩に復せりトレアナンツイヤト方面に向へたる溶岩石の潮流は其進行を停止せり子ープルスに於ては降灰止みしも昨夜數回の地震ありたり

●英國豫算案提出期　英國本年度の豫算案は四月三十日を以て議會に提出せらるべし

●文相の教育案提出　英國文部卿バイレル氏は教育案を議會に提出せり

●英皇のオリンピヤ祭臨幸　目下メシナに御滯在の英國皇帝及び皇后の兩陛下は希臘國アゼンスに於て擧行するオリムピヤ祭に御臨幸遊ばさるゝ旨仰せ出されたり

●伊皇の噴火地御臨幸　伊國皇帝及皇后の兩陛下は危險を冒してベスビウスに達せられたり渦巻き來る灰沙は空氣中に滿ちて日光爲めに暗く呼吸も止まむ許りなりし泥土車輪を沒して御召の自動車を進むること能はず侍從の者は怖れて前進を辭せしも兩陛下は斷乎として御前進遊ばされ終にトレ、アナンツイヤト、オトヂヤノ等の諸村落に達せられ食物等を分配して村民を慰籍せられたり

(以上四月十日發電)

●露國外債發行準備　露國の外債發行の準備は昇ぼ整頓せり其總額は八億万圓より九億萬圓の間にして五分利附なり其內五億萬圓は佛國に於て引受分配する筈なり

●ナタル土匪首魁逃避　ナタルの土匪首魁バムバータは遠く山林中に逃れ殆ど追擊の望みなし

●勞働者案二讀會終了　英國議會に於ては勞働者賠償案の第二讀會を終れり

(以上四月十一日發電)

雜報

●北京通信(接昨紙)

(四月五日特別通信員報)

▲內田公使は此度愈々本國に歸朝し外務に入りて次官の椅子を占め駐清公使の職は林駐韓公使に後任するとに決定したるに就き內田公使は歸朝前一たび京漢鐵道を視察し且つは張之洞と會見し暇乞旁多年未決の問題なる大阪商船會社の碼頭を決定せん爲め今朝島川通譯官を隨へ漢口に出發致され候此の旅行は往復十日內外の豫定にて本月二十日前後再たび歸京し北京に於て十日內外滯在日清兩官紳と告別し本月末に於て歸朝の途に就かるへし林新任公使は東京に於て內田公使と會見し然る後來任の筈に候へば其着任は來月末なるべく候吾人は多年清國に於て敏腕を振はれし內田公使を送らさるへからさるは誠に衷心愛惜の念に堪へさるも曾ては當地に在りて書記官の任に當たり深く清國の事情に通し且つ其外交的手腕に於て世既に定評ある敏腕家林新任公使を得たるを以て大に慰むへく候想ふに林新任公使着任の後は曾て朝鮮に於て振はれたる如く當地に於ても大に其外交的手腕を示し以て我國威を發展致すへく吾人必ずしも失望するを須ひさるへく候

●鐵嶺通信

(四月八日　特別通信員報)

▲鐵嶺の將來は如何　今の鐵嶺は實に色狂人の鐵嶺なり、女郎屋の鐵嶺也、然り女郎屋の樂屋の樣な鐵嶺なり、三人よれば姦しとやら喋々喃々クダラヌ愚痴を囀り暮す鐵嶺なり、眞面目に研究する價値更らに無き也、將來の鐵嶺は如何、乃ち趣味ある研究問題に屬す、鐵嶺は實に南滿洲に於ける水陸兩運の咽喉を扼する所の主要驛路たり、通江口拓けて以來流域易貿關係愈々盛を極むると同時に鐵嶺の繁昌漸を追ふて彼れに推移するものなきにあらずと雖も、其後鐵路の便開けたり、此鐵路開通は益々鐵嶺をして南滿洲に於ける商業上の重鎭として重きを爲さしむる所以ならずんばあらず、今や現に通江口へ二十九哩十四鎖の輕鐵敷設さる、目下還送品輸送の爲めに一般の用に供する能ささるも早晚之れか輸送力や民間の需用に使せらるゝや必せり、將又陶鹿迄二百五十清里間に馬車鐵道創設の企畫あり、或は又幹線長く寬城子に連繫さるゝの日鐵嶺は愈々之れか商業上の中心たり、露國政府か此鐵嶺停車場に重きを置たる亦以て故なしとせんや、今や將さに南滿洲に於ける運輸交通上の革新時機や逼れる也、鉄道輸送力の全力か民間の需用に供せらるゝの時は實に滿洲に於ける運輸の習慣一新さるへきの秋なり、機失すへからず、本邦商人たるもの此際に處して利權を永遠に獲し以て商權を掌握するに努力すへきも、殊に鐵嶺の如き地の利を占むる所に居を構え以て將來を策せんとする本邦商人須く、火事場盜賊根性を去つて以て徐ろに講究する所あるへき也、齷齪乎として女郎屋位を開店し日本人同志巾着錢を絞り取るを以て得たり賢しとなすてんな事か戰後に於ける本邦人の滿洲經營其本旨でもあるまじ呵々。

▲鐵嶺と賣婦　目今の鐵嶺は賣婦の鐵嶺なり、居留許可を得たる者昨日迄に七百九十七名內女百零五名なるも其實四百人に垂んとする賣婦即ち藝妓酌婦あり現に檢黴料を納付する者三百人あり而して旅行者として居住する者等を合すれは約千二三百人位あるへしといふ而かも其三分の一は賣婦なり一驚せずんはあらず

▲鐵嶺の夜警　在嶺有志か專ら奔走の結果西門外に居住する者一團となりて自衞盜害を豫め防かん爲め策を立て法を講せり、即ち實行に着手せり、聞く所に據れは近來末派の馬賊蹤にやゝあらむ跋扈横行良民を害するの事頻々たり、故を以て事や計畫されたり、其夜警巡邏の方法は三人宛を三隊に分ち二人を支那人一人を日本人を以てす、これか夜警者報酬は支那人に五十錢日本人に一圓宛の豫算なりといふ

▲鐵嶺の商業　頗る變調子なり物によれば營口より廉なるものあり物によると滅法高きあり戸々に就て之れを見る戸々に就きて相場を異にす所謂之れを鐵嶺の商業亂脈時代換言すれは鐵嶺の女郎屋時代、殘念なから斯く命名せさるを得す、目下眞面目なる商家として當地に名あるものを數へんか先づ第一に正金銀行、三井物產、有馬組、松茂洋行雜貨店として河內組、豐生、二九、運送店として白川、裕和盛東清通運公司等の分局等皆可成りに門戸を構え居れり、吳泰壽氏の管する輸送店は西關街に新に設計されつゝあり

▲東清通運公司と清國人　當地西門內に構えたる東清運通公司分局は當地有力清國人と共に業務を經營しつゝあり共に業を執る所の清國人の有力者は五六人之れか代表者として名義を表し居るは當地の紳士にして尚志銘此仁名望と財產を併せ有し居るとか兎に角共同清國人等は二十万以上の放資直に以て用に供すへしとの意氣込以て更らに新事業を畫せんとして考案中にありとか聞く

●嶽南曾遊記(下)

蒼然逸人

此學校は廢藩置縣と共に廢校となつたから其齢は至極短命ではあつたが、今日世人に其名を知られて居る人物の中に當年此校の薰陶を受けた人が少くはない、勿論兵學校であつたから比較上軍人に多いやうだ、予は先づ順序として敎師連中多少世間君くは或る方面で名を知られた人を指名して見やう、今は故人となつたが故、長たりし西周氏は所謂る洋學者で軍人ではなかつたが陸軍省に仕へ功を以て男爵を授けられた程の學殖家だ、其嗣子紳六郎氏は當年小學校にありて可憐なる美少年であつたが今は海軍大佐だ、文學博士杉亨二翁は我邦統計學の翹礎と稱へられて居る、明治十年前後小學校の敎科書にまで用ゐられたる兵要地理小誌の著者として名を世に知られたる中根淑氏は今は香亭の名を以て其近作漢詩を時に新聞紙上に見る、英學に深邃なるを以て聞へたる乙骨太郎乙氏は今は老を小石川に養ふ、渡邊溫氏は先年東京府會議員で錚々の名を博した、明治の初年數學生の指針たりし筆算訓蒙の著者塚本桓甫氏は廿餘年前內務省地理局長で捐館した、其他軍人としては海軍中將赤松則良氏は我海軍沿革史上勝海舟翁と其名を齊ふするは何人も知る所だ、黑田中將は前任東宮武官長だ、故砲兵中佐淺井道博氏步兵大佐平岡芋作氏の如き或は二堅の爲め或は逝去の爲め終に赫々の名を博するに至らされとも其現任中は頗る陸軍部內の推重を受けたりといふ、政友會中一方の重鎭たる江原素六翁は當、藩政を執りし有司であつたが校務の事には頗る關係が深かつたやうだ、借て敎師連は此邊で止め是より學生側を列擧せんか、毎日新聞社の島田三郎氏は當年の鈴木三郎氏で頗る俊才の名を博して居つた、故法學博士田口卯吉氏は小學校を卒業して貢業生となるや幾くもなく醫學研究生として靜岡へ移轉した、日々新聞社の古物なる塚原靖氏は夙に才筆の名があつた樣だつたが果して當代一種の機軸を出したる小說家として兎も角も滋柿或は蓼洲の名は世人に知られて居る、此外博士連には工學で石橋絢彥氏は橫濱の航路標識所に居つたが今は朝鮮に居るかも知れぬ、理學で眞野文二氏は今は文部の實業學務局長だが當年の小學生だと思ふ、渡瀨虎次郎氏も亦理學で東京市會議員では有名の樣だが矢張り小學生であつた、醫學博士の榊淑氏も小學生であつた、軍人では將官以上の人だけを擧げやう、海軍には中將向山愼吉氏の一人だけだ、陸軍には前の遼東兵站監今の陸軍大學校長少將井口省吾氏あり前の第一留守師團長中將矢吹秀一氏あり、近頃休職となりし中將古川宣譽氏あり、韓國統監府付少將村田惇氏あり、最近重砲旅團長として凱旋したる少將加藤泰久氏あり、以上は予の記臆に止まりし限りを擧げたのだ、尚は此學校に關する事項にて予自身には感興を催す昔話ならにあらざれとも門外者には左までにはと筆を茲に止む

投書かご

▲面覯郎君足下足下は中村錠太郎君の一旦に於て正金銀行牛莊支店の爲替の步合併に送金料に付て云々し暗に其の不當を詰りたる如し足下は果して金銀の價格に甚たしき變動あるを知る者なるや將た送金に於ても其輸送料は幾何を要し保險料は何程を要するかを知る者なるか覆面郞君足下か爲替の步合に付き將た送金料に付て中村君の忠實を云々するに先ち其の不廉と想像する原因に付き一應の調査を欠けるを甚た惜む者也若し夫れ中村君か指圖人拂ひ手形に於て記載の金額を請求する者に對し保證人を要求する等一見甚た面倒々覺へしむる者は正當の受領者を保護する者也預金に對し徒に其の口座を與へさる者も社會を思はさるか爲に非すして寧ろ社會を思ふか爲也覆面郞君足下吾輩は中村君を辨護する者には非す然れとも事實は曲く可らさる者なるを知る者也足下幸に誤解する勿れ(一商店の小僧)

●篤志の女髮結　金と云ふ名前が附けば折釘一本が原因となつても骨肉爭を仕出かすと云ふ兎角現金主義の世の中に篤志の女もあればある者なり、茲に原籍岡山縣邑久郡行幸村字福岡現時營口永世街第六十六號居住女髮結職日下シゲ(四十一)は昨秋當地に來り女髮結職を以て糊口を凌ぎ專心一意熱心に働きたる結果は俗に云ふ稼ぐに追つく貧棒なしで日々稼高の中を幾等か宛を貯へ最早今では其額實に三百余圓の多きに達したれば墓參旁々一先づ故鄕に歸る事となり昨日軍政署庶務課に至り旅券下附を願出で徐ろに口を開きて云ふよう妾は今度內地に歸る者ですが當營口に參りまして以來銀三百圓餘り儲けましたが之れ誠にお上のお蔭樣ですから此內三百圓を何かの端に献上致したう御座りますと申出でしに係官は賤しき家業にも似合ず殊勝なる心懸けは賞すべきも當署にかゝる金は受取り難き故日本人會へ寄附するか又は貧民に救助すべしと言ひ聞かせたるが、彼れ二度び云ふよう日本人會のお世話になりし事は一度もありません又同會には毎月些少ながら出金して居りますから然らば內地に歸りまして孤兒院へでも寄附致しますと言放ちて歸りたりと、實に珍らしき篤志の心懸けと云ふべし

●營口信　今度第三樓へ大坂南地から來た新猫は忠兵衛どん一儲すべく歸り掛けの駄賃に拉れ來つた者のさうなが其原價が七百圓といふ素的の美形である併し藝者に仕やうとすりや三味線を持つた事が無いと言ひ仲居に爲れと言へば二階の上り下り膳部の持運び襖の明けたてソンナ小七面倒な事が出來るものかと言つて拗戾るヂヤ仕樣がねえぢやないかと忠どん赫として怒ればそれぢや死んで了ひませうかと出るので鼠どん大手古ずりであるげな二三日うちに命名式があるといふ前觸れがあつたがさういふ事情の爲めに公然まだ賣物に出ないのぢやさうな併し貴重な資本を唯だ橫かして置くのも莫大の損失であれば此頃はもう內々に切賣が始まつて居るさうぢやが嘘か眞實かは保證の限りで無い▲萬梅に始終お茶挽の猫が居る何時行つて見ても一人法師でお茶を挽て居ない時は無い樓主も弱り切つたか本人も顏向けならぬ位に氣の毒がつた併しどんなに焦心つた所がお客の附かないにや仕やうが無い到頭凹み切つた揚句或日本通の支那人の鑑定を乞ふたら支那人の好く容貌ぢやから西營口にやれといふので西營口の或日本料理店に出したら其日にもう支那人の客がついて五百圓で身受をされたさうな▲金城館の金勝は近頃大蒜がお好きに爲つたんで毎日御用の八百屋が二荷も三荷も大蒜を擔ぎ込む何んの事か薩張り分らぬが日本人で足らぬ餘り酷どいではありませんか▲此間日本館へ來た大ドラ猫の三勝はもう何處かへ鞍替をする形迹がある鷄林八道を荒らした其腕前で滿洲三界迄掻き廻はされちや堪まつたもので無い

賡早川、秦兩雅兄韻同書懷　大石橋　岩城黄雨

滿腹經綸誰有無生來耻我世情疎東洋奇禍終摧裂北極干戈正艱虞空起瘠身來朔漠史無骸骨報皇圖殘燈影暗難成寐半壁光寒一劍孤

春夜偶吟　同

病裏驕嫌曙色遲頻驚鄉夢感千絲孤燈黯澹瓶斎冷一影一枝對我姿

次黄雨詞兄春夜偶吟韻以贈　野波水外

愧我非才得句遲春愁忽上鬢端絲試君奇骨爲詩骨筆底花開見逸姿

未讀新聞　宮澤犀湯

踏破千山游子軀題詩萬況水雲偏人間活劇見無識未讀新聞覽已留

▲上行車時刻表　車站名　新民屯至溝幇子　營口至山海關　午前點分　上六、〇〇　上八、二〇　午後點分　上九、五七
▲下行車時刻表　車站名　北京至山海關　北京至天津
梅毒婦人科　專門日本醫院
稅關手續　船舶輸出入荷物取扱
諸鐵工製作　鑛山船舶機械鐵工　營口ブリツジ　川鐵
天氣　營口地方天氣豫報　自十二日午後六時至十三日午後六時

小説

新作小説 おとし風（三十五）　德田秋聲

空、朝に晴渡ッた菊日和。庭の奥の方には、植木屋の木鋏が牙ゝて聞ゆる。海鹿家の庭と謂へば、平庭ではあるが、池もあり、築山もあり、石もなかゝゝ入ッてゐて、同族中でも聞えた庭。

此の庭を斜に見通して、所謂御殿を離れて、數寄を盡した一と構、これは子爵家の先代が、老後の隠宅にと費用を惜まず建てられた茶がゝッた別宅である。

拭つやで、鏡のやうに光ッてゐる様に、旭が、一杯に射込むで眼星しばかり。磨ガラスの中透しの入ッた障子は、開け放されてあるから、旭は室まで射込むでゐる。其の光を浴ひで、曲彔に凭れ、緞子の座蒲團の上にちよこなんと座ッて、新聞を見てゐる後室。黒の紋綸子の被布を羌て、頭は切下げ髪。七十に近い年頃に、歯ヽ揃ッてゐる位であるから、其の元氣が察せられる。

何を見たのか、眉を顰め、靜に新聞を下に置いて、外面を眺めた。掛けた眼鏡が、きらり光ッて、床の間に陽炎をちらつかせた。途端に、からころと庭下駄の音。

「誰かの。」

と音のする方を見遣る彼方。半ば落葉した碧梧桐の木立の蔭から、徐に現はれた人影。後室の姿を見ると會釋をして、

「好い、お天氣で結構でございます。」

「然うぢやの、それでも時節ぢやよ。今朝などは中々冷えます。」

と謂ひながら、輕く手を拍たれる。次の室から十七八のお小間使が出て來て、温雅に手を支えると、後室は、疳症と見えて、頭を振りながら、

「あれ、奥様がお越ぢや。お敷物を………」

お小間使は、心得て直に座蒲團を持ッて來た。間もなく奥様は、それえ座られる、お煙草盆が出る、お茶が出る。

海鹿子爵の夫人といふのは、年頃四十二三。黒の羽二重の羽織に、少し古びた縞お召の袷。それでも昔は、美しかッたと思はれる尖ッた鼻、濃い眉毛、締ッた唇の血の氣を褪めて、頬も剝けてゐる。一体お顔の色が餘り好くない。誰が見ても、神經質の方とは直に解る、眼の凹んでゐるのからして、奈何にも胸に何かありさうで、何う見てもお心の圓滿い方とは思はれぬ。

「阿母様のお耳へ、此様なことを入れるではございませぬが、所夫には、あの田舍娘にお逆上のやうでございます。苦々しい御沙汰とも何んとも………」と謂掛けて「阿母様には、尙だお聞ではゐらせられますまいが、那の何んでございます。」

「何かの、光が誕生日のお祝のことかの。」

「左様でございます。」

「それなら、ちらと誰かに聞いて居りましたが、愈々取定ッたといふことは、只今新聞で見ましたが、呆れた沙汰ぢやの。子爵も、何んといふ白痴か、些と逆上が過ぎるやうぢや。私も默ッては居りませぬが、其方からもの………能くいふが可い。」

「いゝえ、それはもう、謂ッた段では無いのでございます、口の酸くなるほど………實は、はしたないことまで申上げたのでございますが、何うしてお聞入になる御様子もございません。そして今朝、突如に、愈々取定めて、招待狀も出して了ッたから、支度をせいとの御沙汰でございます。合田に聞きますれば何んでも三百通からの招待狀を出されたとのことでございます。」

「は、三百通?………… それでは少なくも百五十人からのお客ぢやの。それはまたものいりぢや。それは怪しからんと！」後室は、いきり立ッて「聞けば、勝手向も不如意ぢやとかいふに、何んのことぢや。いゝえ、なりませぬ。私が不服でございます。何うしても癈めて貰はなければなりませぬ。」

「それでも阿母様、癈めるといふことは出來ますまい。」

「何故の。」

「招待狀は出されて了ッたのでございますから、今となッて癈めるといふ譯には參りませぬ。癈めては、名譽にも拘はりまする次第でございますから、癈めることは出來ませぬが………」

「それぢやといふて、那の、小女郎…………猿島寛齊の孫ぢやといふことぢやが、謂はゞ何處の下郎の胤か知れん小女郎を、何うして海鹿の姫ぢやといふて、皆様の前へ出されます。」

「其處でございます。何うせ所夫には、何んと申上げてもお用がないのでございますから、此の園遊會を機に、根から禍を斷つ工夫をしたが可いかと存じます。」

「むゝ、それも工夫ぢやの。して、其の工夫はの。」

と後室は、熱心に耳を傾げられる。火鉢に掛けた銀瓶は煮切出して、淙ッと湯氣を吐くのであッた。

男五句　虚空洞

夜櫻や編笠を漏る大髻
名物の因強爺や桃の花
若草や毛脛むき出す大男
麥を搗く髯の男や梨の花
若衆の追分け節や朧月

廣告

法律事務所の開始

生儀前に判事并に地方法院長等の官職に歴任し及び辯護士の職務を行ひしこと多年今般民刑訴訟の代理刑事被告事件の辯護訴訟事件の鑑定契約書起案法律顧問等總て法律に關する諸般業務の依頼に應ず

營口永世街金城館南隣り　從七位勳六等　小林一生

小林法律事務所

○但し應接時間は午後四時限り夜分の面會は絕對に謝絕す

當地 **唯一の溫泉**

春暖の好季節に入りながら殺風景なる當地にては御慰みともなるへきものも無之四季變りなき御遊ひに飽かせられ候事と奉存候就ては弊館聊か御客樣の御愛顧に酬ひんと存し冬氣中自家設備の溫泉に改良を施し又純潔無邪氣なる侍女を新に呼寄專ら御清遊を旨とし恰も內地の溫泉場に在らせらるゝと同樣の快感を與へ度希望に御座候間何卒續々御來遊の程伏而奉願上候

月日　營口　一力

各位

廣告

追日暖氣相增各位御隆榮御坐被遊賀上候陳者弊洋行義昨年四月御當地に開店已來各位淺からさる御愛顧の御蔭を以て營業致來り候段難有奉深謝候然る處此度都台を以て商店を大連市に引移り候事に決定致乍遺憾當地は此度にて引揚け致候間何卒不相變御交誼之程願上候尙洋行殘務は盛進商行方に依賴致取扱申候間是又宜敷願上候店主一々御挨拶に罷出へき筈に御座候處大連出張中にて不得其意他日來營の機を得て御詫可申上候先は以新紙上御挨拶如此に御座候早々

營口九神廟街　㊏田中洋行

歯ノ衛生治療ハ一日モ等閑ニ附スベカラズ然ルニ當營口ニ良歯科醫ナキハ予輩ノ常ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ二三有志者相謀リ在天津ノ該科名醫田添豊三君ノ出張ヲ請ヒ河岸通リ日營ホテル樓上第一號室ニ於テ本日ヨリ約三週間治療ニ從事セラルヽ事トナレリ君ハ夙ニ天津佛租界ニ於テ開業シ內外人ノ信用ヲ博セラル其治術ノ巧否今復之ヲ贅セズ歯患ニ艱メル諸君及歯ノ衛生ヲ重セラルヽ諸君ハ此ノ好機ヲ逸セズ陸續治療ヲ受ケラレンコトヲ望ム

四月十二日　營口有志者白

歯科名醫到營

治療歯痛之法爲衛生上必要之一端固未可以等閒視之也然本埠竟無良醫余輩深以爲憾頃二三志士特請居留天津之歯科名醫田添豐三君來營即在河岸日營ホテル之樓上第一號室內從事治療先生前在天津法租界開業久爲中外人所信服其技術之良否茲不復贅如有患歯疾者請速至該處診療愼勿失此機會特此聲佈

營口有志者白

金露印日本酒　七百樽

右來る四月廿一日正午茂生洋行（イー、エー、サーヂェント會社）構內に於て競賣に附し可申候

競賣人　チェー、コツク

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時

一往診　午後三時より

▲患者の入院治療を請す　▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄　姙婦の入院を請す（産婆大道しげ子）

院長　醫學得業士　森　矯

副院長　醫學得業士　長船郁太郎

◎院長森矯久敷歸朝中の處今般歸營診療に從事す

◎本院歯科開設　本月十五日より開設す

歯科醫　兒島市郎

森病院

爲替劵盜難廣告

弊號（聚豊隆）は先に遼陽東昇廣より爲替劵廣九號聚豊隆名下營平銀壹千七拾兩營口永遠興の支拂に係る一通及仝地天和福より宇字百六十二號公字二號泰峯鎭名下營平銀五百三十五兩營口廣順棧の支拂に係る一通又弊號（廣興義）は遼陽公立公司達の支拂に係る一通を受け以上三通を遼陽匯源聚豊隆ノ客王輔臣に托し清曆三月九日遼陽より瀋車に乘し牛家屯に達せんとする翌午前一時頃車內にて盜賊に刧かされ前記三通の爲替劵及所持金を奪取せらる依て前記三通の爲替劵は何人の手に渡るとも全然無效に付茲に紙上を以て特に廣告候也

月日　遼陽　廣興義　聚豊隆

一料理用白味噌、赤味噌、
一煙草類、東京淺草海苔、木炭、萬醬油、白米、土佐鰹節
一罐詰類、
一瓶詰雲丹、酒盜、コノワタ、
一清酒澤龜特約、並に瓶詰、
一酢、ビール、葡萄酒、洋酒類、

其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らず御用仰付られ度伏て奉願上候也

東營口永世街第廿八号

雜貨商　大原洋行

瀛船出入案内

湖洲丸　門司直行　十四日出帆
日勝丸　門司神戸行　十五日出帆
能登丸　十九日入港

今回内地去る十日出帆の盛航丸を以て韓國經由牛莊定期航路開始候に付御案内申上候

大阪商船會社荷客取扱所　外國船舶代理傭貸借仲立　輸出入税関手続　解船人夫運搬請負　諸貨物保管　水陸輸送貨物仲次所（神戸、門司、仁川、大連、牛莊）　倉庫業

西北街　德重洋行

和田保平　本店大阪　牛莊分店

YW

日報新聞等の品物御用命は大阪朝日、毎日報新價格表御覧上候

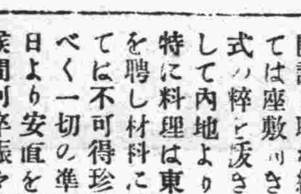
本支店取扱品綿布諸用達御注文可仕多少共御用命被下度候

發售進出口豆子洋線布疋豆餅美國麥粉牛骨洋貨類

御手輕料理

一釜飯御一人前　五十錢より
一卷壽し　一本　十五錢より
一湯豆腐　一壺　廿五錢より
一東京壽し　一人前　卅五錢より

右之外御誂に應す



月日　營口元神廟街二〇九號　翁亭

御旅館　**福屋**　西門外大通　鐵嶺　御料理

萬事勉强乘車乘船好位置　營口中央市場前

旅館　**東京樓**　店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）

西洋料理仕出し御需に應ず

御席料理　和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）

質屋營業

精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候

營口永世街南壹第三十六號　北斗洋行質屋部

千客万來

料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向きも凡て改築仕り本式の粹と淡き藝妓仲居も數店すくして內地より二三五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈〻本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程備に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館　第一營口ホテル

料理　第一樓（電話八四）

古料理　**満月**　平の石（電一六二）

満月支店　平安（元都橋跡）

店主　吉本

和洋御料理

會席

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

營口永世街二本町

日本館（電話百三十七）

各位樣

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着

第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候

ブッシ商會

廣告

當公司今般業務擴張の爲め特に敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はず和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依托に應じ最も懇切敏速に處辨す

建築部主任技師工學士 **森川範一**
土木部主任技師 **永原万吉**
營口元神廟街第百七十二號(電話一七三番)
土木建築請負業 **井上公司**

萬代不朽 毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告

ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく龜破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室内装飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく變色の憂決してなし
米國紐育スタンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号(電話一七三番)
井上公司

Yano & Co.
矢野洋行
電話一三七 Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

醇良自釀清酒

エジプト煙草
インペリヤ(金口)
ヱキスタラフワイン(キルクロ)

右特約仕代價者精々安價にて賣出し候間多少に不拘御用命被下度候

牛莊港東營口
宅合名會社營口支店

銘酒 白鶴
諸雜貨

今般新荷着仕候に付ては卸小賣とも是迄の賣直段より壹割引
酒及米、鑵詰類は五歩引を以て販賣仕候間多少に不拘御用命被仰付度偏に奉願候 敬具

營口元神廟街り
井門洋行
遼陽西門外
仝支店

大日本東京
本舗 山崎帝國堂葯房處修

腦丸
天授

天授者天下多多有咳嗽薬中之冠也
たんせき、ねつさましの一切の妙薬

腦丸者天下唯一之腦病靈藥也
腦病の名薬にして他に類なし

大清國
營口大街(永世街二本町)
藥司洋行 淺野爲三郎
藥劑士
福壽堂 **大葯房**
醫械藥材 有名靈藥 **總發賣處**
總批發處

清國營口二本町二五五號
主任 **鹽川峯吉**(電話一三六番)

發賣 木料 標子 木板
鹽川商會

遼陽小西門内
鹽川商會

●建築用材北海道産松大角(自廿五尺至三十尺)一万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八十本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大日本帝國有名方劑
●化粧品一切 賣藥 卸賣並小賣

右内地と同樣の廉價を以て卸小賣共多少に不拘萬事御懇切を旨とし御用命被仰付度奉希上候 電話にて御注文被下候へば直に持參可仕候

●大阪谷回春堂滿洲總售處
營口永世街(警務課司法部東隣)
三木天洋堂大藥房行(電話百九十番)

日本有名秘藥物總售廣告

[illegible] 無論零賣躉賣均可 [illegible] 以廉比之在日本內地 [illegible] 此告白

三木天洋堂大藥房行(電話百九十番)
啓

旅人宿 東館

大連市信濃町卅九號地

特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

日本帝國醫科大學模範藥局御用
攝津灘石崎合資會社釀造

醇良清酒 澤之鶴

※
滿洲特約大販賣

周
清國營口西北街
裕和盛號支店
電話八十一番

○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

大連湖北彩票毎日賣出

東清鐵道裕和盛運輸局

○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、
○支店清國、芝罘
○本店日本長崎梅香崎

澤之鶴は既に定評ある天美祿
裕和盛は清商中日本通の張本

胃腸病新藥

消化劑
糖化素
醫學得業士矢島氏發見

滿洲特約一手販賣
東瀛大藥房
營口大街

本劑專治脾胃失調飲食不化之諸症飯後脾胃疼痛過用米麵積滯腹瀉脚軟心驚婦人懷孕患嘔吐之症熱病稍愈腸胃未至於調和又如停食胃口不開肝胃氣痛肚腹膨脹兩便苦澁之諸症均有卓効

發明者日本醫學得業士
矢島猴太郎 謹白

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

宮門抄

十五日 禮部 太常寺 正紅旗值日 吏部引 見 六十四名 內務府五名 高樹 胡遠燦伺候 召見 召見軍機 高樹 胡遠燦

十六日 兵部 太僕寺 廂白旗值日無引 見 莊王順王等由 東西陵 回京請 安 亨公請假五日 召見軍機 黃昌年遞封奏二件 蔡曾源遞封奏一件 皇太后 皇上本日巳刻升 勤政殿義國使臣巴樂禮帶領海軍統領諸威利思 覲見

上諭恭錄

十五日奉 上諭四月十八日常雩大祀 天於 圜丘朕親詣行禮四從壇派鐵麟 蔭希璋銘勛各分獻欽此 上諭此次 東陵 西陵內務府京察一等圈出人員着該堂官再行出具切實考語帶領引見其連璧等五員均准其一等加一級欽此

專件

奉天督銷局總辦章樾等請在營口試辦國民捐稟

營口爲商務薈萃之區財力既厚而紳商人士亦復明達宏通急公好義從前如南省各處稍有偏災卽毅然協濟近來如日本東北三縣荒災及孤兒慈善等會我紳商亦念邦交解囊相助東邦人士心焉許之況此次國民捐上自天子下至庶人皆節省經費湊集此款蓋以利害所關尤與身直接我紳商士民有不慨然輸助者決無之事也又況昨閱某報日政府聲言中國捐欵如能達賠欵之數該國願一律退還美國亦表同情是日本重念同洲同文之誼以自强望我卽以國民待我矣而我顧不能自盡義務以成國民之資格不獨無以對　朝廷又何以對各國乎頃聞督銷局總辦章觀察樾營口廳談太守國桓鹽釐局總辦魁太守陞帮辦徐明府埏芝釐金局總辦忠太守駿帮辦霈明府厚等特稟督帥倡辦國民捐本社今得其稟稿特錄之報章以爲熱心愛國者導　(本社附誌)

敬稟者竊營口商務繁盛各帮林立爲東三省通運之衝鉅商大賈輻輳往來類多宏達明通之士近因省垣及京津等處倡辦國民捐影響所及人心大爲感動職道等晤接紳商皆知此舉爲淸償外債起見事關公益樂於輸納者爲多其願捐鉅款幷轉勸親友撙節用費以成義舉者尤不乏人祇以提倡無人未由投納每向職道等殷殷致詢忠愛之忱形諸辭色職道等伏查國民捐起點法國當綏丹戰敗普人要索賠欵戍兵境上法民憤極圖强設櫃捐貲助償賠欵不及兩年欵淸兵撤國勢復張至今傳爲佳話竊以中外雖異心理則同以營口一隅之地少數之人而熱念所成若忘其爲盃水車薪之助推而至於四萬萬衆其急公好上必有同情當此人心思奮亟宜因勢利導俾集腋成裘以紓公家之急職道等情願首爲倡率幷有營紳趙祖蔭鄭漢臣劉興沛鉅商潘達球紫應增王耀三閻景三翟仁山高永祺寶樹瀛等皆願各盡義務帮同勸集現經公同集議以本埠商號殷實客帮富碩者多將來輸將日盛必有鼓勵之方庶人情有所觀感擬仿外洋赤十字社辦法預製各色徽章以待捐助重欵之人另製精緻花紋國民捐照編定號數發交經收號家凡納捐十元以內者僅照數塡給執照一張其納捐自五十元以上或百元或五百元或千元除給執照外幷獎以各等徽章所領捐照可以粘貼門閭所得徽章許其隨身佩帶以示光寵若所捐在千金以上爲數較鉅應隨時稟請憲台給予獎勵以昭激勸庶聞風興起海內之大必有毀家紓難之人則賠欵得以提前淸償全國之幸亦大局之福也至所集之欵按月彙交省城官銀號存儲職道等管見所及謹擬章程十條繕具淸摺倘蒙採擇先由營中試辦行之有效再行推廣各屬一體照辦愚昧之見是否可行理合稟請憲台鑒核示遵實爲公便須至稟者　(未完)

北京電報

●**商部允准吉長鐵路自辦**　吉省紳董於西四月六日晋京請商部以自辦吉長鐵路現商部允准幷補助鉅欵八十萬云

●**中國却法使要索**　日前南昌教案已經定於京師議辦聞刻下法公使所要索者外部一律峻拒云　(以上西四月十二日發)

遼陽電報

●**總督啓程赴奉天**　此次關東總督大島大將爲參列凱旋陸軍大操於本日下午十二點鐘二十分發遼陽赴奉天聞總督住留該地約兩三日卽由安奉鐵路經韓國回國云　(西四月十二日發)

東京電報

●**日公使催請開埠**　聞駐京日使因該國政府訓令往訪外部尚書那桐君催請於西五月速開奉天及安東縣各埠那尚書答以與慶邸協議卽行覆答云

●**外部電飭袁督**　此次因日美兩國照會外部催請速開放滿洲商埠卽電飭袁督及趙次帥於中四月爲奉天安東縣兩處開埠之預備云

●**荻原書記官啓程之期**　大使館一等書記官荻原守一君已定於西本月十五六日啓程由東京前往中國云

●**俄公使訪外相告新任**　新任駐日俄使巴古鳩滅君於西四月九日往訪外部會見外相西園寺侯告其新任云　(以上西四月十一日發)

●**中國皇上電謝日本皇上**　奉天之役日軍嚴守　陵寢宮殿以安中國發祥之地此次和議已成卽交附其所守者於盛京將軍　中國皇上深德日本之高義電謝日皇且大稱日本軍隊之規律嚴正　日皇當亦覆電云　(西四月十二日發)

中外要聞

●**催議俄約**　駐俄公使胡惟德日前來電告外部云現俄政府注重伊犂新疆及內外蒙地諸大部速與俄公使詳細議約勿任遲久反多不便云云昨聞已照催俄使開議矣

●**催辦工程**　官場人云學部尚書以國子監借地辦公各項均未安置且榮尚書並未上任俟將中鐵匠胡同衙署竣工榮尚書必極力整頓學界昨已傳知工程處早行竣工茲聞職商張某稟稱五月初一日交工等語云云

●**警部籌捐**　聞警部人云現署內某員擬稟請徐大軍機添設房捐鋪商捐此項應由內務府調查仿胎房錢庫辦法茲有某侍郞告以俟馬路修齊先辦車捐然後再定房捐鋪商捐各事云云

●**請設鐵廠**　頃聞候補道員王小眉氏擬稟外部籌設冶鐵公司開廠專鑄鐵軌並有機器局某員製造火車機器免購於外洋以致利權外溢現在王君運動妥協卽將稟請矣

白話

萬國演說會會員管君之演說

鄙人不明商學　見識淺薄　公然到此演說　未免可笑　承魏牧師雅意　屢々見約　聽說這萬國演說會日見興盛　恰是私以狠喜歡的　這演說會是今日頂緊要的事　吾們合各國通商　幾十年咯　通岸口岸　一年盛似一年　實在兩下裡都有益的事　這麼吾們中國還不明白通商的好處　常說進口貨愈來愈多　出口貨越來越少　要知道洋貨製造精　價錢便宜　你若能想出新法造出新物件　運到外國　人家一樣兒爭着買　你自已不肯上前　能怨人家麼　此地前幾年有攙水豆子　護弄着賣出去　在船艙裡發了熱到那兒爛了霉了　人家吃了你一次虧　以後還能信服麼　你看外洋來貨　貨樣是怎樣　無論幾千幾万件　都是一樣　中國貨喜歡拿壞的　攙雜在好的一塊兒　帶累着好貨物亦會賤價錢　還有一層　人家在這作買賣　考較着吾們喜歡什麼　用什麼一年用多少　近來日本報上載着說東三省人喜歡的花樣是仙鶴蝙蝠鹿壽星這幾樣　忌諱的又是那幾樣　不過是花樣合裝演的事　人家那麼留心　吾們就知道守着舊道兒　多少錢販買來的多少錢賣　他買去幹甚麼用不知道　一年能用多少不知道　你說能敵過人家瑪　還有一說　吾們出口都是生貨　人家來的都是人工合機器製造的貨　像是棉花　買了吾們的運到外國　紡成紗線織成布　還運到中國賣　吾們得趕緊想法子　弄出兩種人工可以運銷外洋的貨物　趕緊向前進步　若不然　處處讓人占先　合打仗一樣　來復鎗敵不過快鎗　擡桿敵不過快炮　那是一定的公理　更要知道院子裡大樹成了陰　底下的小樹一定不能茂盛　不用人家欺負你　你就自己消滅了　吾們一向在鼓裡睡覺　幾十年沒有醒　從前外國報比做睡獅　說物件狠大　可惜睡着的意思　近年的報譏銷說像病夫像垂死的人　借這萬國演說會　合萬國人的心思知識　正好喚醒大夥兒的沈夢　醫治大夥兒的舊病　世界上自從輪船鐵路交通之後　像從前似的關着大門過日子　你是你　我是我　那是不行的了　現在除非是急急的向前進　要進步　先得去吾們的舊病　第一是眼光要放遠些　志向要放大些　比方說有兩萬銀作買賣　有二分利亦就不錯　總得想着由兩万做到二十万二百万　可不是一味冒險　做倒把的勾當　像賭博孤注似的　總該做實在事業　實在事業就是製造　吾們亦是一個人　沒有說吾們做不到的　第二是不可自已護弄自已　賺了錢要考較明白　不可說是運氣　吾們商人最信運氣　最講敬財神　要知道財神靠得住　大夥兒不用做買賣　只要誠心敬神　元寶就能送上門瑪　運氣又是誰經管的　一點兒心不用　但知道靠運氣　掌櫃的拏這話塘塞財東　說店運不好　有甚麼法想　其實有的是新法子　把穩道兒的買賣　大夥兒讓護弄實在可怕　(未完)

NEWCHWANG, FRIDAY, APRIL 13, 1906.

Mr. Chin Hwan, President of the Foreign Bureau, Mukden, who arrived by the "Haeting" from Shanghai was entertained at an informal tiffin by Mr. Segawa yesterday and was in the evening the guest of honour at a Chinese banquet held at the "Tung Hai Lao" by Messrs. Kwei and Chung and the local Guild. Mr. Chin intends to leave for Mukden to-morrow.

Lt.-Col. Yokura returned from Liaoyang about 9 last evening.

A large and representative attendance was waiting for Mr. Kuan, Magistrate of Haicheng, when he appeared on Wednesday evening to address the 'Yen Hsuo Hui' at the club-room within the Temple of Fire God. Quite a number of foreigners were present, including Mr. Sammons and Mr. Bandinel, who each gave a short address at the close, the latter gentleman happily summing up the sentiment of the meeting by the remark that, if it had accomplished nothing else than affording an opportunity of listening to such an address as that of the evening by Mr. Kuan, the Society amply justified its popular existence.

Mr. Kuan is an accomplished platform speaker, pleasant to listen to, unfolding his ideas in a clear and cogent manner, interspersed with apt illustrations. He spoke for the greater part of an hour, but the audience recalled him later in the evening and he favoured the delighted gathering with what was equivalent to a second lecture. The text of his first speech is to be found in our Chinese columns to-day, but a brief synopsis is given here for the benefit of those who may take more kindly to any English, however bad, than to a really fine specimen of Chinese dialectics.

Mr. Kuan began by congratulating the Society on its formation and expressed the belief that it was calculated to do great service to the cause of reform. Commercial intercourse between Chinese and foreign countries had been mutually beneficial to both Chinese and foreigners alike, and this was borne out by the yearly increase of the prosperity of the treaty ports. Some of his fellow countrymen grumbled that, while imports increased, exports were inversely on the decrease. Foreign goods found a ready market in China, because of good quality, reasonable prices, and of suiting the needs of the people. In order to keep the old markets open, China must stop adulterating her goods. He instanced the practice of watering the beans before reaching the port to increase the weight. In order to create new markets, China must go in for industrial enterprise. Hitherto almost all the exports had been raw-material, the produce of the soil. If China would hold her own with foreign countries, she must manufacture. At present, the foreigner comes and buys, say, raw cotton from China, ships it half round the world, makes it into cloth, and imports it back to be sold at a profit to the Chinese in its manufactured form. This should give food for serious thought. It was plain that old methods must give place to new, just as in warfare the flint-lock has given way to the rifle and the Chinese blunderbuss has been superseded by the quickfiring gun. China had for long been asleep like a man slumbering inside a drum and no amount of drumming could awake her. The foreigners used to liken her to a lion asleep, a big powerful fearsome creature, but sleeping. Of late they had changed the simile. China was described now a sick invalid, sick unto death. He for one could hardly relish the idea of his country being regarded as an incurable brother to the Sick Man of the Near East, and hoped for an improvement in their opinion. He rejoiced in such a society as this, which aimed at bringing health and progress to China.

Mr. Kuan then enlarged upon five great needs of China. (I) An enlarged commercial and industrial outlook. (II) The discarding of the notion that luck, or the 'Tsai Shen Yea' had anything to do with commercial prosperity or the reverse. (III) The establishment of joint stock companies; union was strength in commerce as in everything else. The want of mutual trust among the Chinese was a great hindrance, which however might be largely removed by (IV) the organization of Chinese Chambers of Commerce. A beginning had been made in this direction in Peking, Mukden, and other centres—an example worth following on the part of the merchants of Newchwang. (V) The establishment of a Fishery Board for the protection and development of the fishing industry along China's seaboard.

At the close of the meeting, a cordial vote of thanks was accorded to the lecturer for his interesting and instructive discourse.

時刻

塘沽至北京	上六、〇〇	下二、〇六
天津至北京	上二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、二〇	下六、四五
唐山至山海關	上六、〇〇	下一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

郵便入院　永世街警務課ノ前

市場北三階樓　時計店ノ二階　宮原公司　其外鑄物諸般

場務報

昨日の氣温　昨日最高温度六十三度九　最低温度四十度三　昨年との　高十六度一　高六度五

營口旅館料理店案內（いろは順）

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主　村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程

料理　千鳥　元神廟街百三十三號　店主　吉住善藏

料理　沖の島　永世街百六十四號　店主　中川彌三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主　坪田正好

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主　片山小みつ（電話一四五番）

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）店主　麻田久二

旅館　大和館　永世街三十四號　店主　前田九一郎

料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主　直塚勝一

料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主　田島彌助

料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　店主　和田常松

和洋御料理　公樂園　南永世街

東京生蕎麥　一式　東庵　元神廟（電話百五十九）

旅館料理　金城ホテル　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主　齋藤富次郎

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主　澁田留吉

料理　喜樂亭　營口元神廟街

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主　谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任　谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　さるそば　第二更科　營口元神廟　永世街鶴の湯角

御料理　柳亭　豊濟門街二三　店主　玉岡釜人

叮嚀專一　御料理並ニ溫泉　毎日新湯　一力　營口永世街　店主　堀万助

和洋料理　松月亭　營口元神廟街一四三号　住松信太郎

料理　平野町　都樓　店主　坂本ちか

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　日營ホテル支店　主任　井上源吉

御料理　會席　菊水館　主任　朝枝園提

旅館　西洋料理　遼陽館　主任　永瀬宇吉

旅館　料理業　公陽館　主任　宮川秀基

御料理　會席　末廣屋　主任　山根初之丞

御料理　色々應御注文　凱旋亭　主任　古谷庄太郎

旅館　御料理　遼塔ホテル　主任　木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任　谷口今朝太郎

會席　玉家　主任　西野治三郎

御料理　會席　來々亭　主任　石田清

和洋料理　御旅館　滿洲ホテル　遼陽西街西門二七号　上松粂治郎

奉天旅館料理屋案內

遼陽城內東街　一和洋御料理　遼東館
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得へく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彦に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

旅館　奉天館　奉天城內鐘樓南大街　奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理　日淸倶樂部　奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿　瑞豊館　奉天小西關大街北側　館主　河野嘉吉（電話　號）

會席御料理　高等御旅館　天神樓　奉天小西關大街北側（電話　號）

旅館料理店　日の出樓　奉天小西門通（元紅葉館跡）溫泉付大勉强キレーデヲイシヒ　樓主　入瀬七造（電話十七號）

旅館料理店　日盛館　奉天小西關大街南　館主　入江寅男（電話　號）

旅館料理店　梅松館　奉天城內灰市街東華門宮殿東側　館主　押尾富次郎（電話　號）

旅館料理店　大和館　奉天大西關高臺子廟前　館主　今井コノ

旅館　大正館　奉天小西邊門外十間房道北側　館主　大草村行

奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すへき様に相成居候間御投宿の節は極便宜に御取扱可申上候　高砂館本店　奉天十間房第十五號

御旅館料理　奉高館　高砂館支店　奉天城外廿四號　店主　宇本智平

旅館料理店　日奉館　奉天小西門外大街　館主　原田清五郎

高等旅館　東洋館　奉天大西門外小什字街（電話　號）主任　藤島初野

御料理　梅ヶ枝　奉天小西門より一丁西の辻北入　館主　辻井ムメ

旅館料理店　勉強館　奉天小西關外北長發園隣

高等御旅館　茂林館　奉天小西關大街路北（電話二十五號）

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

會席御料理
金城館

奉天小西門外
會席御料理
高等御旅館
金城館

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大淸通運公司營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲け新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

NEW ARRIVAL.!
Nicely decorated
China-ware, Doll pin
cushious, Looking Glasses, Artistic paper lanterns
etc. S. KATO & Co.

新荷着
寫眞ブック、寫生帖、手帳、不易糊、
久留米絣、信玄袋、時計袋、ハンカチーフ、
トランプ、歌かるた、碁器、將棊、
窓掛レース、提灯、有明行燈、
發音器、ステツキ、下駄、唾壺、理髪道具、
京都松風燒歐州風陶器、舶來ニツケル台鏡、化粧品
其他味淋、鑵詰等色々參りました、
營口　加藤洋行支店（電話八十番）

工
飯塚工程局材料部
營口元神廟前（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

自造　煉瓦●瓦　並に各種石材販賣
營口青堆子
加州組（電話八十六番）

大連
東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

西洋家具　製造販賣
營口青堆子
清水寧木局（電話九十四番）

美味安價西洋料理
牛莊亭

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

會席料理
三日月
營口警務課前南に入る

爲替相場（四月十二日）
日本向　九十九圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向　七十一兩二十五錢（同）
天津向　一百〇二圓五十錢（百弗に付）

日本品最近物價　加藤洋行
紙類
一半紙　一〆　二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙　仝　七圓五十錢
一仝　二十枚續　三錢二厘以上四錢
一狀袋　百枚　十三錢以上十八錢

室內裝飾品及寢具　矢野洋行
一蒲團　三枚組　六圓九十錢以上六十五圓
一疊
一薄縁　十枚　二圓六十錢以上三圓
一麻緞通　一疊敷　八圓
一綿緞通　仝　三圓　三圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ケ月前金　銀八十仙
半ケ年前金　四弗八十仙
一ケ年前金　銀九弗六十仙